

風水害

災害別の対応を身につける

近年、全国各地で台風や集中豪雨などによる洪水や土砂災害が発生しています。集中豪雨や暴風雪などによる災害はいつ起こってもおかしくありません。

遠軽町でも過去幾度も大雨による被害を受けており、注意が必要です。

被害を減らす心得

▼チェックしましょう!

- ☑ 日頃から気象情報を見て、天候の変化に注意しましょう。
- ☑ 屋外と屋内の大雨・強風対策をしましょう。
- ☑ 避難勧告などが発令されたときや、危険を感じたときはすぐに避難しましょう。
- ☑ 浸水時など状況によっては建物内に待機するほうが安全な場合もあります。状況により判断しましょう。

! 知る ~いざというとき、正しく判断するために

気象庁の注意報・警報

大雨や強風などにより災害が起こるおそれのあるときは「注意報」、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「特別警報」が発表されます。



災害の危険性

○土砂災害危険箇所とは

土砂災害のおそれがある箇所を、国土交通省が示した点検方法に基づき抽出し、北海道において危険箇所の位置図を市町村ごとに作成したものです。(土砂災害の発生箇所を決定するものではありません。)

○土砂災害警戒区域 (通称：イエローゾーン) とは

「土砂災害危険箇所」で土砂災害が発生した場合に住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域のことです。

○土砂災害特別警戒区域 (通称：レッドゾーン) とは

「土砂災害警戒区域」で土砂災害が発生した場合に建築物に破損が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が発生するおそれがあると認められる土地の区域で一定の開発行為の制限及び居室を有する建築物の構造の規制をすべき土地の区域のことです。

該当する凡例

危険砂災害箇所	土石流危険渓流
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

該当する凡例と地図上のレッドゾーンの事例

警戒区域	土石流
警戒区域	がけ崩れ
特別警戒区域	地すべり

災害が起こりうる状況を把握しましょう。こうした状況に気がいたら周囲に知らせ、すぐ避難しましょう。

土石流の前兆

- 山鳴りがする。
- 川が濁り流木が混ざる。
- 川の水位が下がる。



がけ崩れの前兆

- がけ面から小石が落ち、裂け目ができる。
- がけから水がわき出る。



地すべりの前兆

- 地面にひび割れや陥没ができる。
- 樹木が傾く。



湧別川・生田原川の危険水位

	湧別川	生田原川
はん濫危険水位	80.6m	174.86m
避難判断水位	80.3m	174.59m
はん濫注意水位	79.3m	174.43m
水防団待機水位	78.9m	174.06m

※参考：国土交通省 川の防災情報 <https://www.river.go.jp>

準備 ~被害をおさえるために

住まい周辺をチェックする

日頃から災害に備え、被害をおさえるためにできることをやっておきましょう。

点検・補強

屋根、塀などの点検・補強をする。



側溝の掃除

ゴミや土砂を取り、排水しやすくする。



室内に撤去

風で飛ばされそうなものは室内へ。



ガラスの飛散防止

窓が割れないようにフィルムを貼る。

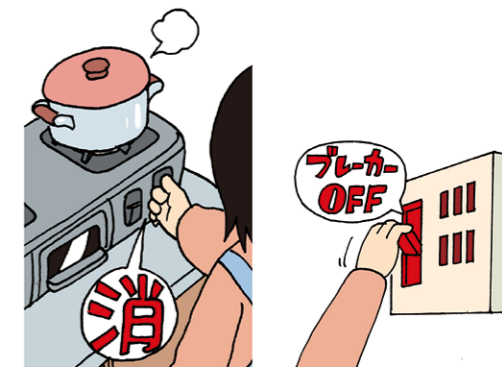


避難する ~安全を確保するために

避難前の注意

気象庁からの情報や町からの情報など、正しい情報に基づいて避難の判断をしましょう。

- 気象情報や町からの最新情報を入手する。
- 非常持出品を点検し、避難所を確認する。
- 避難所まで安全に避難できるルートを確認する。
- 避難前にはガスの元栓を締め、ブレーカーを落とす。



避難するときの注意

危険を感じたら自己判断で避難することも必要です。浸水や土砂災害が起こる前に、安全に避難するようにしましょう。

- 警報などが発表されなくても、危険を感じたら早めに避難する。
- 避難は複数人で、基本は徒歩で行う。
- 長靴での避難は避け、履きなれた靴で行う。
- 浸水しているときは、足元などを棒で注意しながら側溝や水路に注意する。
- 子どもはロープなどでつなぎ、はぐれないようにする。
- 浸水の状況によっては、頑丈な建物の2階以上へ避難する。
- 警報や注意報が解除されるまで、警戒を続ける。



遠軽町の防災情報

町では、各携帯電話会社が提供するサービスを活用して、災害・避難情報を配信しています。受信設定方法や対応機種などの詳細については各携帯電話会社にお問い合わせください。